

會 々

○菊が枯れました。紅葉が散りました。もう冬に入ります。

といつて何も怖れることはありませんが、この初冬にかぜをひくと、からだの上にもその弊がつき易いし、それ以上、寒さにおくびようになりまます。寒冬生活の教育をする大切な時期でしょう。

○地方にもよることですが、幼児らは普通の健康のものなら、そうく冬を心配することはないでしょう。苦勞症のおとな——親や先生があんまり冬の戸外を怖れ過ぎて、幼児らを部屋の中に護り過ぎるのがいけないかも知れませんね。

○あの寒いシカゴの大聖幼稚園で、冬のお心づかいとは尋ねたら、できるだけ戸外生活の機会を逸しないよう氣をつけていますという返事でした。そして、午前中幾回かの中休み時間に、必ず幼児を外へつれだしてました。何しろ溶けない雪が冷く氷ついている庭へ出るので、そのたんびに、一々外套を着、帽子をかぶり、靴をはきかえ、全くの外田仕度をさせるのです。短い時間の出はいるに仕度に時間のかゝることだし、それに面倒でもあり、おつくりでもあると思われますが、その代り、外は外で落ちついて遊んでいるの

です。飛び出して、ふるえて、飛んで歸つたり、上ばきのまゝ雪を跳んで、ぬれた足のまゝべちゃ／＼と室に入る。そうして、叱られる。外へ出てはいけませんというごことになるのと大分ちがうのです。——どうも、戸外の冬を怖れながら侮つて、そうして戸外の冬にいちめられるといつた風が我國にありはしませんまいか。冬ばかりじやありません。こんなに雨の多い國でありながら、子供の雨着に心を用いないで、ぬれたまゝで平氣でいることが多いのですが、そんな不注意で冬はかぜをひくものとしていたりするのは、随分非文化な生活じやありませんまいか。

○冬の戸外に冬らしく親しませよ。初冬の一つの贈りものとして。

『幼児の教育』編集

編集主任 倉橋惣三
協力委員 牛島義友
及川ふみ
齋藤文雄
多田織雄
波多野完治
山下俊郎
西山浪太郎

編集委員

日本幼稚園協會

幼児の教育 第廿六卷 第十一號

定價 金參拾圓也

昭和二十四年十一月十五日印刷

昭和二十四年十一月二十日發行

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

編輯者 倉橋惣三

東京都千代田區神田神保町二ノ四

印刷者 佐野眞一

東京都千代田區神田神保町三ノ二九

印刷所 明和印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田區神田神保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33)三九七一番

振替東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他は凡べて發賣所「フレーベル館宛に願います